

21世紀の日本のかたち（19）

-- 海と森のコスモロジーー東京の姿形について考える（その5） --



戸沼幸市
＜(財)日本開発構想研究所 理事長＞

1. 海之都 - 江戸・東京物語

関東平野の一面に広がる大東京は、この平野の地理、地形、河川、植生を活用して形成された陸の都市にちがいはありませんが、見方によっては「海之都」といえます。

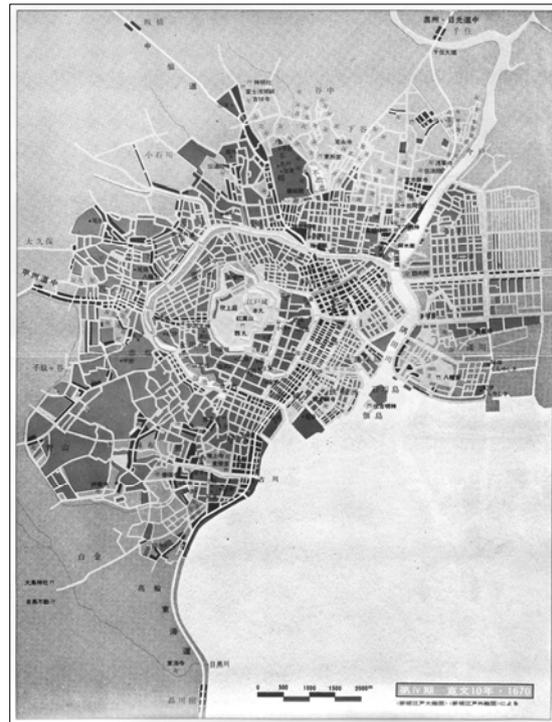
大江戸の中心（核）江戸城は、まさに海—江戸湊に直面しており、江戸は眼前に広がる海の力、豊かな資源、質量を存分に活用して、江戸幕府が置かれた事実上の日本の首都となり、政治の中心地として発展してきました。江戸城は湾口の狭い浦賀水道から入る江戸湾の最奥部に位置し、陸上戦を中心とした戦乱の世にあって海は格好の防衛壁になり、幕府は陸路、街道筋に木戸を設けるなど他藩からの攻撃に備え、海を背にした構えをとったと解釈されます。江戸城を二重に取巻く内濠外濠も海からの水も活用した防衛ラインでした。

戦乱が治まり太平になった元禄の頃の江戸は、世界的に見ても最大級の近世100万都市にまで成長しましたが、これを支えたのはまさに江戸湊、海でした。

江戸湊は海運の一大拠点になる優れた立地条件を持っていました。幕藩体制下、鎖国した日本の、太平洋、日本海につくられ、日本の津々浦々をつなぐ東廻り航路、西廻り航路の一大ターミナルで

あり、併せて、江戸市街地の拡大、開発については、平野側への広がりに合わせて眼前の海を埋め立てて行われました。商人、町人の住む下町を出現させたのです。

1670（寛政10）年の江戸



出典：『江戸と江戸城』内藤昌著、鹿島出版会SD選書（1966発行）

物流に係る商人の町、職人、町人の住むコンパクトな下町、佃島などの漁師のまとまった居住地が海の上に次々に出現しました。魚河岸があり、

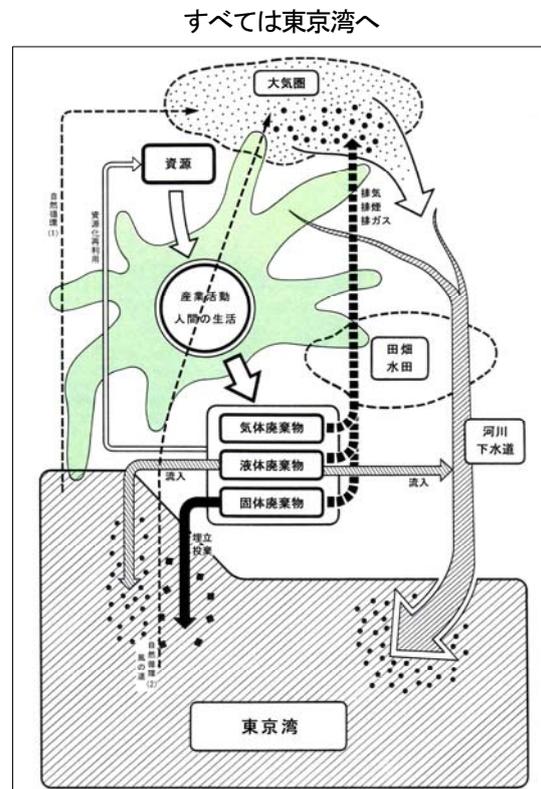
江戸城の前に広がる海「江戸前」でとれた魚介類を食材としてつくられた和風料理は、文字通り江戸前となって江戸文化の起点になりました。下町埋立地には縦横に運河が走り、低地の水路、隅田川や神田川と組合わされて、湾岸に水網都市ができました。ここには盛り場もあり、名所、寺社も造られ、海の都江戸が形つくられたといえます。

明治維新以後、鎖国から開国へ、農業国から工業国へ、日本の近代化の過程を映し出すように東京湾の景観は大きく変貌しました。東京に隣接する横浜港は海国日本の先兵として大活躍し、今年、開港 150 周年を迎えました。東京港も関東大震災を契機とし、竹芝、日の出、芝浦埠頭が築かれ、昭和 16 (1941) 年国際港となり大消費地東京と直結して今も大きな役割を果たしています。近代日本の首都となった東京は、内陸部での人口集中に呼応するように、東京湾臨海部には各種産業、海運と重なった商業、工業基地が次々に形作られました。これにやがて比重を増してゆく空の玄関羽田空港が加わり、日本の近代化を牽引する海と一体の首都東京が出現しました。

戦後 (1945 年～) は日本の人口急増、経済の高度成長と呼応して、東京への人口、産業、都市諸機能の一極集中が起きました。東京の居住地は関東平野の内陸へも海側へも広がり、巨大都市化し、東京湾は過剰なまでの利用がなされました。東京湾岸は大規模に埋め立てられ、京浜・京葉に重化学工業などが張り付きました。港湾物流機能も拡大しました。この急変貌は都市に住む市民を海から遠ざけることになりました。

東京の海は内陸部からの大量のゴミ、汚水、下水等の処理を一手に引き受けることになり、1960 年代には東京湾の水質汚濁、大気汚染が大きな環

境問題になりました。この間の実情と課題について当研究所もこれを取上げ、「**東京湾岸地域蘇生一調和への選択**」(1972 年)として発表しました。



資料：「東京湾岸地域蘇生一調和への選択」p.26、財団法人日本開発構想研究所 (1972 年)

「東京湾岸地域の汚染排出物は、大気、河川、下水を通じてすべて東京湾にしわ寄せされ、蓄積される。東京湾は、港湾として、水産業の場として、海浜レクリエーション地として、また湾岸地域から出るゴミの堆積場、浄化地として、多くの機能を持っているが、いまや進展する水質汚濁によって麻痺状態にある。東京湾の水質を浄化してその機能を確保し、エコシステムの回復をはかることが東京湾岸地域蘇生の出発点である」

「すなわち、生活・産業・環境のバランスを、東京湾水質問題を中心に、環境重視型へ移行せしめる必要にせまられている」**「硫黄酸化物による大気汚染対策に合わせて、広域的な一酸化炭素、窒素酸化物、鉛酸化物等による汚染や、工場排煙な**

どの各種複合汚染の慢性化は防ぎようがなく、結局は自動車無公害技術の開発が最も緊急の課題である」「大気汚染に耐えつつ生態系を維持するため、出来るだけ大きな規模で、しかも人間が緑と接触する機会が少しでも多くなるように配置されなければならない」

これは年々悪化していく 1960 年代の東京湾の水質を少しでもよくすること、東京湾岸地域全体の機能蘇生のための努力を、研究所として、定量分析を添えて訴えたものでした。

20 世紀末から 21 世紀にかけて、東京湾に限らず日本の港の風景が大きく変わった要因として、港湾貨物のコンテナ化があります。港町の古い煉瓦造りの倉庫は市民の楽しみの空間になり、人びとを再び海に引き戻すことになりました。

そして近年、地球温暖化問題がクローズアップされてきました。東京湾でも横浜港、東京港の老朽化した港湾施設が衣替えして、市民交流の場となりました。東京港の埋立地も、緑豊かな公園に様変わりしつつあります。

近年の地球温暖化問題は、かつて私どもの研究所が'72 年レポート（「東京湾岸地域蘇生—調和への選択」）で期待した無公害車、エコカーづくりと、東京湾上の埋立て、人工島の緑化、森づくりを後押ししています。

2. 海と森のコスモロジー

メガロポリス東京のゴミ捨て場として造成されたかつての「中央防波堤内側埋立地」の 88ha が「海の森公園」に生まれ変わろうとしており、2016（平成 28）年に一部開園を予定しています。

東京都が呼び掛けて、都内の公園や街路樹の剪定枝葉から堆肥をつくり、浄水場発生土、下水汚泥のリサイクル利用の土づくり、苗木づくりをし

て、市民の力によって植樹し、資源循環型の大きな森に育てようというものです。



歌川広重の名所江戸百景「南品川鮫洲海岸」

かつて人の手によって植樹された木々が 100 年経って大きく育ち、神宮の森となったように、海の森づくりが 20 年、30 年後に立派な森になって欲しいものです。そして、宮城県の畠山重篤さんたちが始めた気仙沼に流入する河川上流での森づくりによって、気仙沼の海が牡蠣の立派な養殖場となったように、この森が「海の恋人」となって海中にプランクトンが生まれて CO₂ を吸収し、付近においておいしい魚介類が獲れることにでもなれば愉快的ことです。

東京港の区域には現在でも市民に開放されている多くの公園があります。

古くからの海辺の名所である浜離宮恩賜公園、お台場海浜公園、有明テニスの森公園、若洲海浜公園、辰巳の森海浜公園、大井埠頭中央海浜公園、城南島海浜公園、葛西海浜公園といくつかの公園があります。これに海上墓地公園があってもよいのかもしれませんが。

東京港野鳥公園 潮入りの池 アジサシ島周辺



(2009.07.30 「東京港野鳥公園ライブの映像」より)

この中で、歌川広重の名所江戸百景「南品川鮫洲海岸」あたりに開園している東京港野鳥公園（1989年10月開園、24.8ha）はユニークです。この公園は、1960年代に埋立事業が開始され、その後自然にできた水たまりや原っぱにいつの間にか野鳥

が集まるようになり、バードウォッチングの有名スポットにもなりました。これを見た地元の人達の間で埋立地によみがえった自然を守る運動が起り、東京都もこれに応じて都民の財産として野鳥公園がつけられました。

隣の羽田空港からの離発着の飛行機と鳥たちの飛び交う図は全く現代的です。

山野の鳥：キジバト、キツツキ、ツバメ、セキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、スズメ、ムクドリ、カラス。水辺の鳥：ウ、サギ、カモ、チドリ、シギ、カモメなど年間120種類にも及ぶ野鳥が飛来することです。

7月一日、私もバードウォッチングをしましたが、私でも知っている野鳥たちが喜々として飛び交っておりました。

この鳥たちは東京湾岸の山野や、東京都内の緑、

木々、森と、風に乗って往復しています。

鳥は木々を飛びわたり、都心の森と海の森を網目状につないでいるのです。この図は海と森の平和なコスモロジー（宇宙的循環）といった感があります。嵐でもなければ夏の海風は心持ちよいものです。

「海の森」と「東京都心の森」をつなぐ風の道は、エコロジカルに大きな働きをしているのです。

夏場、都心の密閉した建物や無機質な人工空間からの膨大な廃熱によって生まれるヒートアイランドをこの風は冷却してくれるのです。

東京都は景観計画の中で、臨海景観基本軸（イメージとしては景観基本面）を設定し、海から見る東京の景観を重視していますが、高層の住宅棟群や産業施設群を含む海と森のコスモロジーを重視してこそ、東京の姿形は生きてくるものだと思うのです。

(2009年07月30日改定)

東京港の海上公園（東京都港湾局）等



- 1 海の森予定地
- 【海浜公園】**
- 2 大井ふ頭中央海浜公園
- 3 東京港野島公園
- 4 城南島海浜公園
- 5 お台場海浜公園
- 6 辰巳の森海浜公園
- 7 若洲海浜公園
- 8 葛西海浜公園
- 【ふ頭公園】**
- 9 コンテナふ頭公園
- 10 みなとが丘ふ頭公園
- 11 東海ふ頭公園
- 12 城南島ふ頭公園
- 13 京浜島ふ頭公園
- 14 京浜島つばさ公園
- 15 芝浦南ふ頭公園
- 16 青海北ふ頭公園
- 17 青海南ふ頭公園
- 18 水の広場公園
- 19 青海中央ふ頭公園
- 20 暁ふ頭公園
- 21 フェリーふ頭公園
- 22 新木場公園
- 23 晴海ふ頭公園
- 24 春海橋公園
- 25 品川北ふ頭公園
- 26 有明西ふ頭公園
- 【緑道公園】**
- 27 昭和島北緑道公園
- 28 昭和島南緑道公園
- 29 大森緑道公園
- 30 京浜運河緑道公園
- 31 大井ふ頭緑道公園
- 32 東海緑道公園
- 33 城南島緑道公園
- 34 京浜島緑道公園
- 35 東人潮緑道公園
- 36 シンボルプロムナード公園
- 37 有明テニスの森公園
- 38 辰巳の森緑道公園
- 39 夢の島緑道公園
- 40 新木場緑道公園
- 41 青海緑道公園
- 臨海部に位置する公園（東京都建設局公園緑地部）**
- 42 潮風公園
- 43 台場公園
- 44 夢の島公園
- 45 旧芝離宮恩賜庭園
- 46 浜離宮恩賜公園
- その他・大型の区立公園**
- 47 大田区立平和の森公園
- 48 品川区立しながわ区民公園